新約聖書 ルカによる福音書 3 章 7 節―18 節（新共同訳）

[7]そこでヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。
「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。[8]悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起こすな。言っておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。[9]斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」[10]そこで群衆は、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。[11]ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えた。[12]徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。[13]ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。[14]兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。
[15]民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。[16]そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。[17]そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」[18]ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民衆に福音を告げ知らせた。

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「わたしよりも優れた方」

リジューのテレーズという、24 歳の若さで亡くなったフランスの修道女がいます。リジューのテレーズは、こう述べました。「主のみ心にかなう者は、自分の小ささ、貧しさを愛し、主のあわれみにひたすら信頼しきっている者です」。

自分の小ささ、貧しさをゆるし愛することができれば、他者の小ささ、貧しさもゆるし愛することができるのだろうと思いました。

そして、鶏が先か卵が先かという話になりますが、他者の小ささ、貧しさをゆるし愛することができれば、自分の小ささ、貧しさもゆるし愛することができるのではないでしょうか。

本日は「喜びの主日」と呼ばれる、待降節第 3 主日です。クリスマスがすぐそこに近づいているという喜びを、私たちに感じさせてくれる日です。待降節（アドベント）とは、イエス・キリストの降誕の時であるクリスマスを待ち望む期間です。この時季は毎年、イエスの道備えの役割を果たした洗礼者ヨハネに関する聖書箇所が読まれます。

本日の福音書では、洗礼者ヨハネの口を通して、来るべき方である主イエス・キリストを迎える喜びと、悔い改めの必要性が説かれています。

一見すると、喜びと悔い改めは相反するものに思えます。しかし、悔い改めと喜びには、親密なつながりがあります。悔い改めることによって、私たちは真の喜びを得ることができます。また、真の喜びを得た時に、私たちは悔い改めることができるのではないでしょうか。

ヨルダン川で、ヨハネに洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に対して、ヨハネはこう呼びかけました。

「蝮（まむし）の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ」（ルカ 3:7）。

ヨハネから洗礼を受けることを求めて、はるばる足を運んできた群衆に対する、「ようこそ来ましたね」という雰囲気とは異なる、ヨハネの厳しく激しい言葉がそこにはありました。

ヨハネは、罪の赦しと救いは、自らが悔い改めることのないままに、洗礼だけを受けても与えられないことを、群衆に知らせようとしました。洗礼を受けると共に悔い改め、そして悔い改めの実を結ぶことによって、初めて罪の赦しと救いが与えられるのだと、ヨハネは語ります。

それに続く「『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起こすな」というヨハネの言葉にも、悔い改めへの同様のメッセージが込められています（ルカ 3:8）。

この意味は、自分たちはアブラハムの子孫で神の民であるユダヤ人だから、それだけで神から祝福を受けて救われる、といった選民意識や幻想は取り払われねばならない、ということです。血筋や人種は関係なく、悔い改めることでのみ人間は救われると、ヨハネは人々に強く訴えます。

悔い改めとは、これまでの生き方や心の持ち方からの方向転換であり、神の方を向き、神の前で本気で祈ることです。ヨハネは、主イエス・キリストの到来を見すえていました。だからこそ、それに備えるための悔い改めを、群衆に語ったのです。

これを聞いた群衆たちは、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」とヨハネに尋ねました（ルカ 3:10）。そして、このあとに続く徴税人も兵士も、同じことをヨハネに問います。

「わたしたちはどうすればよいのですか」というこの問いには、これまでの生き方を転換して、新たなる出発を始めたいと願う人々の思いが表されています。「どうすればよいのか」は、「何を行えばよいのか」ということでもあります。そして、「行う」は、ヨハネが「ふさわしい実を結べ」と言った、「結ぶ」と同じ言葉なのです。

ヨハネは「どうすればよいのですか」という、人々の問いに答えます。その答えは、自分の持っているものを、必要としている人と分かち合うこと、隣人の欠乏に愛の分かち合いをすることでした。そして徴税人には必要以上の不当な

取り立てをしないことを求め、兵士たちには人から金を脅し取ったりだまし取ったりすることを禁じました。

これがヨハネが語った為すべきことであり、悔い改めの実です。これらは、目を見張るような特別なことではありません。「蝮の子らよ」など、厳しい言葉を群衆に投げかけるヨハネでしたが、ヨハネが人々に求める行い自体は、分かりやすくシンプルで、堅実なものであったと言えるでしょう。

民衆はメシアを待ち望んでいて、もしかしたらヨハネがメシアでないかと、心の中で考えていました（ルカ 3:15）。この民衆の思いを受けて、ヨハネはそのことについて、これから到来する主イエスと自分との関係について語りました。ここでヨハネは、自分がメシアではないと明かし、自分と真実のメシアは、存在そのものに違いがあると述べました。

ヨハネは、人々を悔い改めに導き、人間の救いに関して、自分ができる最善を尽くしました。しかし救いの完成は、自分より優れた方である真実のメシアに委ねます。そのようにしてヨハネは、罪の赦しと救いは、人間のわざで成されることではなく、神のわざであることを明らかにしました。

人が人のためにできる限界を突き破って、神は人間を罪から解放してくださいます。聖霊と火による洗礼によって、人間は囚われていた罪から解放され、新たなる出発をし、新たな命を生きることができるのです。

さらにヨハネは、自分の後から来られる「わたしよりも優れた方」は、麦の殻を消えることのない火で焼き払われると述べました（ルカ 3:16-17）。

ヨハネは、脱穀された麦の本体の実は私たち人間であり、消えることのない火で焼き払われる麦の殻は人間の罪であると たとえているのではないでしょうか。人間を罪から解放してくださるメシアが来られる。人間は、罪が赦されなければ、真実の意味で自由にはなれません。私たち人間の罪を、消えることのない聖なる火で焼き払い、囚われの身である私たち人間を解放してくださるメシアが神のもとから送られて来ると、ヨハネは告げるのです。

ヨハネは、「悔い改めにふさわしい実を結べ」と言いました。先ほど申し上げたとおり、ここでの「結ぶ」とは、「行う」と同じ意味です。すなわちヨハネは、悔い改めたら、それを行動に移すことの必要性を説いているのです。

そしてまた、冒頭で述べた「鶏が先か、卵が先か」の話になりますが、悔い改めができていなくとも、まず愛の行動を実践してみることが、悔い改めにつながるのではないでしょうか。

私たち人間は、子供の頃は、祖父母を愛し、親を愛し、そこに全幅の信頼を置いています。それがだんだんと大きくなるに従って、無垢な幼子だった自分を世話してくれた人たちには、とても言えないような隠し事や秘密を持つようになり、そこから離れ、乱れた生活や荒んだ生活をするようになったりします。

そこには、「神と離れる」ことに近いものがあると思います。しかし、そういった時期が過ぎ、長い歳月が流れていくと、心はまたそこに帰っていく。神と

私たちの関係も、そういうものかもしれません。

私たち人間には、「悔い改め、これからは神に立ち返り生きる」と、あるとき、心から感じる時があるのではないでしょうか。

もうすぐ訪れるクリスマスに思いを向けながら、私たちは、日々、心を新たにし、希望と喜びをもって、共に歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。
全能の神様。私たちが、自分の人生の向きを変え、あなたへと立ち返ってゆくことができますように。私たちの力を超えたあなたの救いのわざを、どうか地上において実現してください。救い主、御子 主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン

＊＊＊＊＊＊ 説教ここまで ＊＊＊＊＊＊

以下、本日に関連する聖書箇所（第１朗読と第２朗読）です。

旧約聖書 ゼファニヤ書３章 14 節―20 節（新共同訳）
[14] 娘シオンよ、喜び叫べ。イスラエルよ、歓呼の声をあげよ。娘エルサレムよ、
心の底から喜び躍れ。[15] 主はお前に対する裁きを退け／お前の敵を追い払われ
た。イスラエルの王なる主はお前の中におられる。お前はもはや、災いを恐れ
ることはない。
[16] その日、人々はエルサレムに向かって言う。「シオンよ、恐れるな／力なく手
を垂れるな。[17] お前の主なる神はお前のただ中におられ／勇士であって勝利を
与えられる。主はお前のゆえに喜び楽しみ／愛によってお前を新たにし／お前
のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」[18] わたしは／祭りを祝えず苦しめられ
ていた者を集める。彼らはお前から遠く離れ／お前の重い恥となっていた。[19]
見よ、そのときわたしは／お前を苦しめていたすべての者を滅ぼす。わたしは
足の萎えていた者を救い／追いやられていた者を集め／彼らが恥を受けていた
すべての国で／彼らに誉れを与え、その名をあげさせる。[20] そのとき、わたし
はお前たちを連れ戻す。そのとき、わたしはお前たちを集める。わたしが、お
前たちの目の前で／お前たちの繁栄を回復するとき／わたしは、地上のすべて
の民の中で／お前たちに誉れを与え、名をあげさせると／主は言われる。

新約聖書 フィリピの信徒への手紙４章４節―7 節（新共同訳）
[4] 主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。[5] あなたがたの
広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。[6]
どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈り
と願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。[7] そうすれば、あら
ゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエス
によって守るでしょう。

教会讃美歌　303 番「このまま」1,2,3 節、333 番「山べに向かいてわれ」1,2,4 節、337 番「やすかれ」1,2,3 節、375 番「神の息よ」1,2,4 節